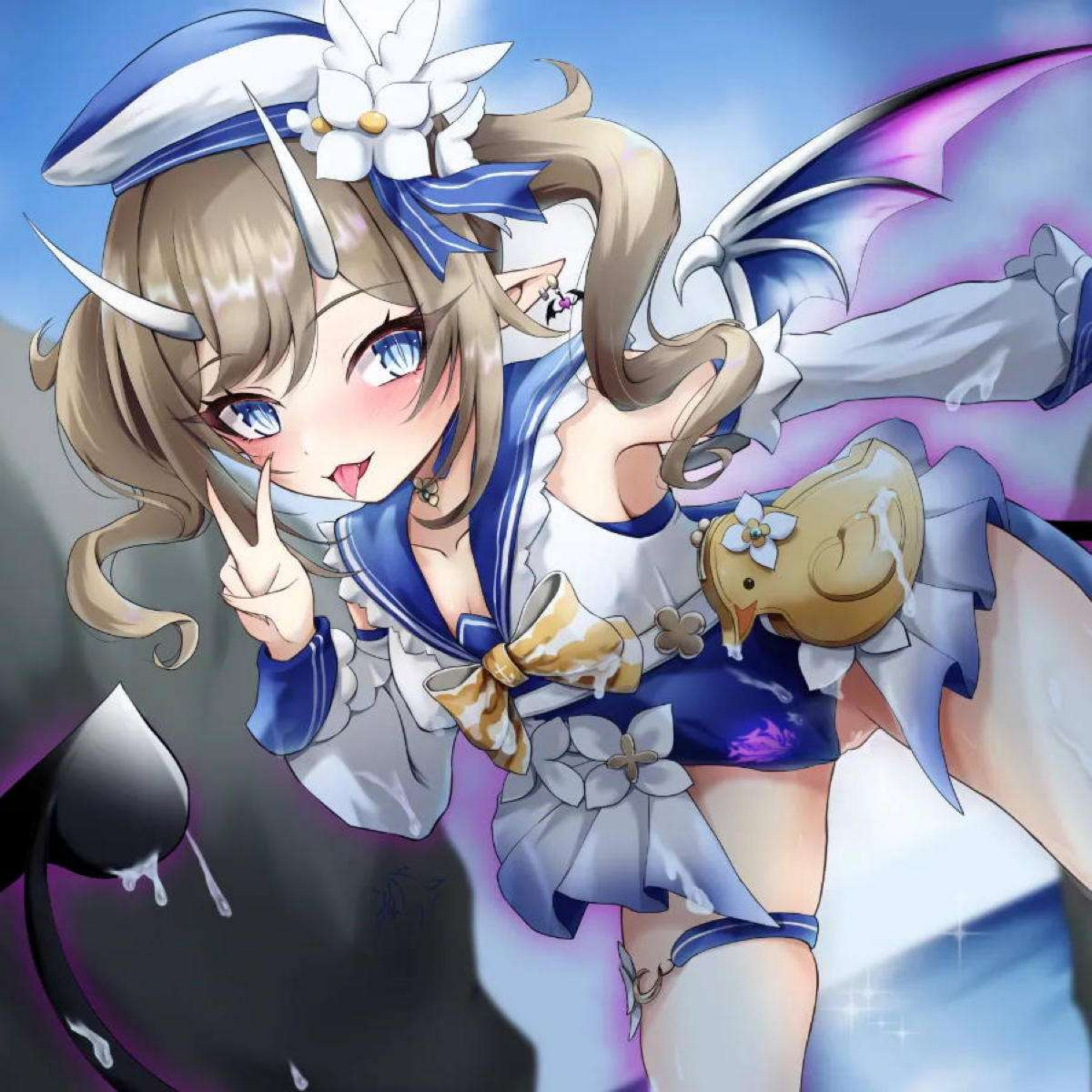




(削除済み) とあるバーバラファンクラブ会員のメモ

バーバラ裏ファンクラブとは 最近できた10人ほどの少人数の極秘クラブである。

バーバラ様に対して強い性的感情のある男たちで組織されているらしい。
バーバラ様自身が秘密裏に普通のファンクラブ会員の中から勧誘しているということだが
目的は不明だ。

裏ファンクラブに関しては口外厳禁である。
私自身も勧誘を受けて入会したがその時のバーバラ様を見て
何故か絶対に口外しない方が良く感じた。気のせいかもしれないが...

そして今日、初の活動がモンドの■■■海岸で行われるという。
これから出発するが 何かあったときのためにメモを残しておく。
口外厳禁だが文字として残しておくのは問題ないだろう。

モンド内のひとけがない海辺にて

「今日は
バーバラのために集まってくれてありがとー!☆」



「バーバラ様がサキユバスのコスプレを…?」
「一体なぜ…?」

バーバラの恰好にざわつく中、一人のガタイのいい男が詰め寄った

「バーバラちゃんさあ そんな格好して俺達のこと誘ってんの？」

「ぎゃあー!？」

「お兄さんお○んちん丸出したよー!？」



「俺達を集めたのはこれが目的なんですよ？」

「あはっ! そうだよー☆

それじゃあ早速みんなでエッチしようっか☆」

「その言葉を待ってたぜ！」

「あんっ！♡」

男の巨根が容赦なく挿入される



「うおっ！？締め付けがキツイな……なかなかいいじゃないか」

「動くぞ！オラッ！」

「あっ♡んっ♡
気持ちいいよ♡」

「バーバラ様エロすぎ…」

始めは戸惑っていた他の男たちも
いつの間にか自慰行為をしだしている



「わあ! すごっ♡ いっぱい出てる♡」

「やべっ!」
「もう出ちまう!?!」
「うおおっ」



「えー？もう出ちゃったの？
しかも外に出しちゃってるし♡」



「うるせえ！次はちゃんと中に出してやる！」

再び男の巨根が勢いよく挿入される

「オラオラッ！」

「んっ♡ あっ♡ はあっ♡ あんっ♡」

「にしてもほんとに名器だぜ
出したばっかなのにまたすぐ出ちまいそうだ……！」



「え？尻尾から何か出てる！すげーよく出来てるな」

その時一人が不意にバーバラの尻尾を掴んだ

「お♡」

「-c-」

「ん？なんか脈打ってる？
リアルすぎる。。。もしかして本物なんじゃ。。。？」



「何を言って…」

「…あーあ、ついに私の秘密知っちゃったね…」
「♡」



その後、バーバラから禍々しいオーラが発せられ
コスプレだと思われた角や尻尾、羽などが変色しだした



「バーバラ様……？」

「秘密を知られちゃったし、
あなたたちを絞りつくすことにするね♡」



「うおっなんだ！急に締め付けが強くなって……抜けねえ！」

「あははっ！
さっきまでの威勢はどうしたのかなあ？」

「ぐっ！体が言うことを聞かない……！？」

謎の力によって、性行為をしていた男はピストンを止められず
自慰をしていた者たちもその行為を止めることができない



「バーバラ様がサキュバスだったことは秘密にしますので
どうかお許しをっ!」

「うっ…頼む一回休ませてくれ!」

男たちは命の危険を感じバーバラに助けを求めた

「うーんどうしよっかなあ…」



「やっぱだめー☆
あなたたちは私のエサだから
食べられるしかないんだよ♡」

「そんっなっ…あがつ！
やめっ…ああつ…！」



「あははっ！ なにその情けない顔！」

「はやくいつちやえ！ イけ！ 逝けえ！」



「きたきたあああー!」

「うっ!
あああああああああああ!」

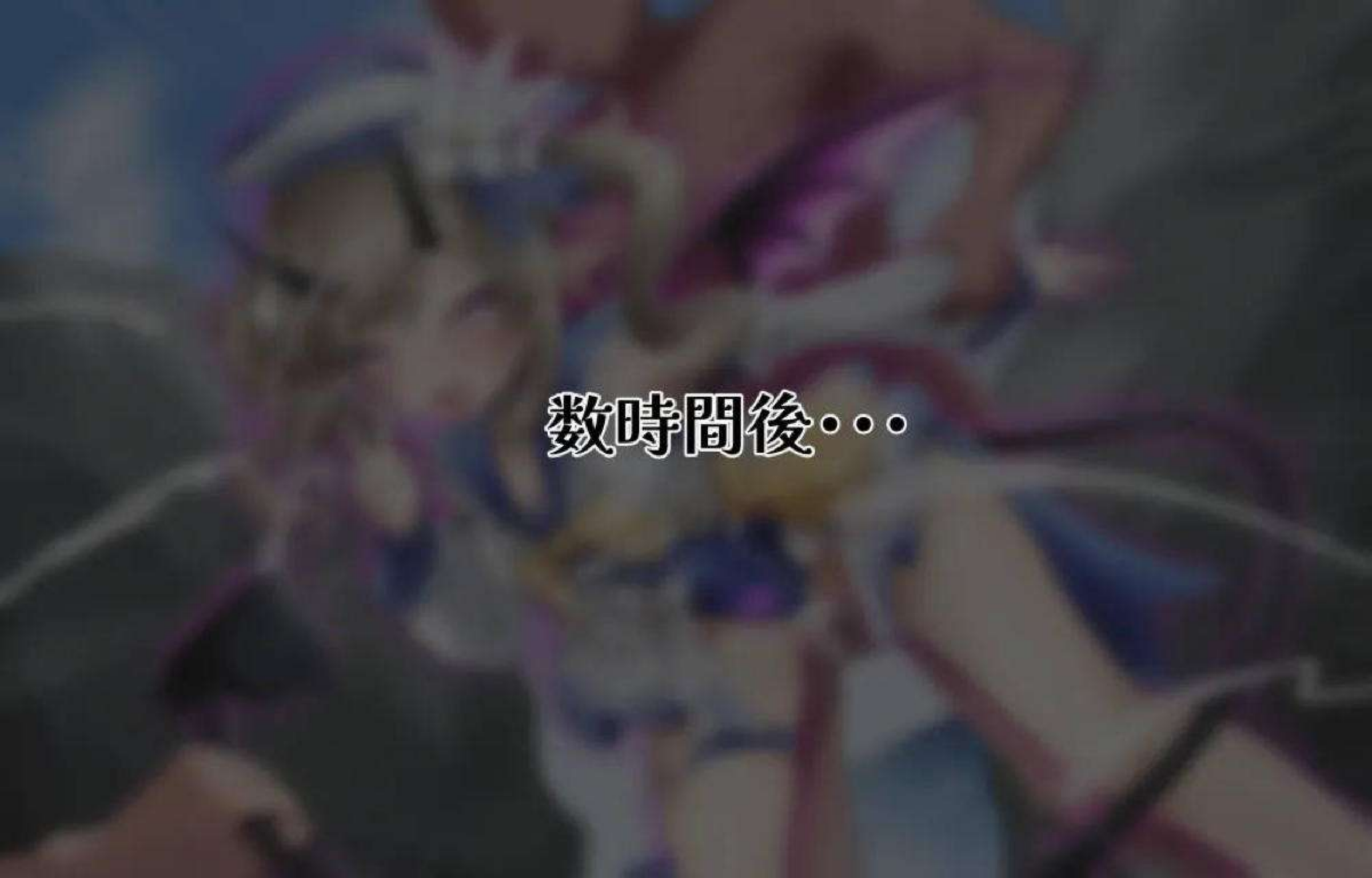
「おっ……がつ……あ……」

「はぁ♡どびゅどびゅ出てる♡気持ちいい♡
イクイクウウウー!♡」

「……ふう♡気持ちよかった♡
あっ他のみんなも全員搾り取るから覚悟してね♡」



「.....」



数時間後...



「はぁ♡はぁ♡おいしかった♡
ごちそうさま♡」



地面には複数の男が倒れていて全員ピクリとも動かない

「あーあ、また人間集めないとなあ…でもまだまだ
ファンクラブの会員はいっぱいいるし大丈夫かな☆」

その後もパーパラファンクラブから
度々行方不明者が出たが、
なぜか始めからいなかったかのように
気にする者は誰一人いなかった…

The End